

高齢者におけるオシロメトリック法とドプラー法を用いた ABI 値の比較[§]

Comparison between Oscillometric- and Doppler-ABI in Elderly Individuals

高橋郁乃 古川恭治 大石和佳 高橋哲也 松本昌泰 藤原佐枝子

要約

末梢動脈疾患 (peripheral arterial disease [PAD]) は上肢下肢血圧比 (ankle-brachial blood pressure index [ABI]) の低値によって検出されるが、それには特殊な技術を必要とすることから、本疾患は一般に十分認識されるには至っていない。我々は、連続波ドプラー超音波を用いる標準的手法に代わり、簡便かつ短時間で検査が実施可能な VP-2000 (自動オシロメトリック法) を用いて、高齢者 113 人 (年齢範囲 61–88 歳) で測定した ABI 値を検証した。両下肢ともに、ドプラー法で測定した ABI 値はオシロメトリック法と比較して有意に標準偏差が大きく ($P < 0.001$)、二つの方法で測定した ABI 値の相関は左下肢で 0.46、右下肢で 0.61 であった。この結果から、ドプラー法では検査者間の測定値のばらつきが大きいことが示唆された。ABI が低値の範囲になるほど、オシロメトリック法とドプラー法で測定した ABI 値の差が有意に大きくなる傾向を認めたが、ABI > 1.1 の範囲においてはその差はほとんど認められなかった。また両測定法の ABI 差は、喫煙者において非喫煙者よりも大きくなる可能性が示唆されたが ($P = 0.09$)、健診時年齢も含め ($P > 0.50$) 他の潜在的な動脈硬化危険因子によって影響されなかった。ABI が低値になるほど両測定法の ABI 差が大きくなる傾向により、ドプラー法による PAD 検出はオシロメトリック法より高くなったが (感度 = 50%、特異度 = 100%)、両測定法による PAD 検出の一致率は低くなかった (Cohen kappa 係数 = 0.65)。本研究結果は、高齢者において、オシロメトリック法を用いることにより、従来のドプラー法よりも正確な PAD 有病率の評価が可能になることを示唆するものである。

[§] 本報告書は *Vasc Health Risk Manag* 2013 (March); 9:89–94 (doi: 10.2147/VHRM.S39785) に掲載されたものであり、その正文は同掲載論文のテキスト (英文) である。この日本語要約は、日本の読者の便宜のために放影研が作成したが、本報告書を引用し、またはその他の方法で使用するときは、同掲載論文のテキスト (英文) によるべきである。